

診療科目：呼吸器内科

カテゴリー：必修科目、選択科目

一般目標：呼吸器内科診療の基本を、主として病棟診療を通して学び、
内科医として必要な呼吸器内科の知識と技能を修得する。

個別目標：

- ・呼吸生理・解剖についての知識を深める
 - ・胸部 X 線写真・胸部 CT の読影能力を高める
 - ・適切な検査項目を選択し結果を解釈できる
 - ・胸腔穿刺など呼吸器で頻繁に行われる検査・手技を身につける
 - ・診断に基づき適切な処方を選択できる
 - ・酸素療法や人工呼吸器管理を理解し実践できる
- ① 研修内容 検査法
- ・動脈血液ガス分析（自ら実践し結果を解釈できる）
 - ・細菌学的検査 喀痰採取、グラム染色（自ら実施し結果を解釈できる）
 - ・呼吸機能検査（適切な検査項目を指示し結果を解釈できる）
 - ・気管支鏡検査（介助・実施し結果を解釈できる）
 - ・画像検査（単純 X 線写真、CT、MRI、核医学検査など）
（適切な検査項目を選択し結果を解釈できる）
- ② 手技
- ・動脈血採血（自ら実施する）
 - ・胸腔穿刺（指導医の監督の下で自ら実施する）
 - ・胸腔ドレーン挿入・留置（指導医の監督の下で自ら実施する）
 - ・胸膜生検（指導医が行うのを見学、経験する）
 - ・その他、呼吸器系に限らない基本的手技（末梢静脈確保、中心静脈カテーテル挿入、気道確保を含む BLS、ACLS）（自ら実施する）
- ③ 基本的治療法
- ・薬物治療（抗菌薬、気管支拡張薬、抗癌剤、ステロイド薬、解熱剤、麻薬など）（作用・副作用・相互作用について理解し選択の理由を説明することができ自ら処方指示できる）
 - ・酸素療法（患者の呼吸状態を理解し適切な酸素吸入法と酸素流量を指示できる）

- ・人工呼吸器管理（患者の呼吸状態を理解し、指導医の監督の下で適切な人工呼吸器管理法と呼吸条件を指示できる。気管切開の適応を理解し、気管チューブの交換を指導医の監督の下で実践できる）

④ 経験すべき疾患・病態

- ・呼吸不全（原因・病態の診断ができ指導医の監督の下で適切な呼吸管理を行うことができる。在宅酸素療法の導入を経験する）
- ・肺炎など呼吸器感染症（起因微生物の推定、喀痰グラム染色の実施と解釈ができる。重症度の判定と適切な抗菌薬を選択できる）
- ・閉塞性肺疾患（画像及び呼吸機能の評価ができる。薬物療法を理解し指示・処方する）
- ・間質性肺疾患（画像および呼吸機能の評価ができる。組織学的検査の必要性を理解し結果を解釈する。薬物療法を理解し指示・処方する）
- ・気胸・胸膜炎など胸膜疾患（浸出液と漏出液の鑑別ができる。原因の診断ができる。胸腔穿刺や胸腔ドレーン挿入を実施する）
- ・肺癌（臨床病期、組織学的診断に必要な検査の選択・指示ができ、適切な治療法を選択できる。治療法の効果・副作用を理解し、副作用に対応できる）

指導方法

1. 呼吸器内科の病棟患者を、主治医とともに担当医として常時10人程度担当する。
2. 週1回の呼吸器内科カンファレンスで、症例提示を行い、ディスカッションを行う。
3. 週1回の内科カンファレンスで、1症例の提示を、レジュメを作成して行う。
4. 呼吸器内科に特有の、気管支鏡検査、胸腔穿刺・ドレナージ等の検査・治療手技について、その適応・方法を習得する。